



立教大学

第20回図書館総合展 フォーラム
2018/11/1

電子書籍と専門教育・研究 の可能性

立教大学社会学部 教授
是永 論

ronkore@rikkyo.ac.jp

自己紹介

- 専門：情報行動論・コミュニケーション論
2017年『見ること・聞くことのデザイン』新曜社
(2018年**社会情報学会優秀文献賞** 受賞作)
2004年『わかってもらおう説得の技術』中経出版
- 主な担当授業
学部3年生：専門演習（いわゆるゼミ）
学部4年生：卒論演習・指導
大学院：相互行為論演習・修論指導
そのほか：社会学からの学び（全学年）
エスノメソドロジー（専門科目）

本日の内容

1. 大学生と図書
2. (電子) 情報検索と図書
3. 専門教育と電子書籍
演習 (ゼミ)
卒論 (論文作成)
講義

1. 大学生と図書

- 図書 = 読書 (= 人生) ?
“**人格的な関わり**”に対するギャップ
- 時間と効率
とにかく**忙しい大学生**
“**コスパ**”重視：金銭以上に
- 大学（生）としての要件
図書を使って（新しいことを）**考える**場所
×単なる知識・技能習得：学びて思わざれば…

2.情報検索と図書

- 図書館情報学：“情報行動”としての検索
 - ①検索による知識の取得（狭義の検索）
 - ②検索情報を用いた**作業実践**（検索の効果）
- ⇒総合的なInformation practice（“**検索行動**”）
- 検索行動における図書の位置づけ
 - ネット情報の“優位”
 - 安くて速い（コスパ） ・ 「写しやすい」
 - 図書独自の効果が**不明瞭**⇒「人格」という口実？
 - ※“読書”から一度離れて考える必要がある？

3. 専門教育と電子資料

- ① 3年ゼミ（前半）：“図書を使った作業”の意識
「読むこと」自体は作業の前提（基礎教育）
何を・どのように・**考えるために使うのか**
⇒研究上の**ロール・モデル**の構築
先行研究から何を読み取るか
➤ 電子的な**検索行動**の意義
論文**データベースを通じて**体験的に理解
検索結果自体によって導かれる作業過程
データ・事例からどのように**主張するか**

3. 専門教育と電子資料

② 3年ゼミ（後半）：作業過程の展開
グループによる協同・自主的な進行
検索⇒考察⇒検索の反復として

➤ **作業空間**としての図書館

独自の体験：**開架**を探る・**体系**を知るなど

検索と**使用機会**の連動 ※ギャップによる挫折

教員・アドバイザーによるフォロー

※現状での授業カリキュラムとの連動の弱さ

3. 専門教育と電子資料

③ 卒論：“論文指導は研究室で”

図書を手元においての作業指示

- 電子書籍：資料の蓄積と入手確実性
指導教員＋学生による所有の可能性
さまざまなテーマへの対応

※ 論文テーマの“流行”・時限性

資料として入手困難／保管する必要の少なさ
日常的に使用する上でのハードルの高さ

- **作業上の必要性が上回れば…**（PC所有も）

3. 専門教育と電子資料

④ 講義授業での電子書籍メリット

➤ 資料としての細やかさ

どこを**どのように読むか**：画面投影など

➤ 所有の**時限性**：期限付きの使用設定

※紙書籍としての所有（強制）のリスク

入手時期がバラバラ／転売過剰で値崩れ

⇒時限性がかえって購買意欲を生む？

3. 専門教育と電子資料

- 電子書籍活用のために
 - **デバイス問題の克服**
独自の端末環境の必要性（電子インク 等）
 - **作業過程の組み込み方**
レポート出題：長文の出題傾向
テキスト活用：キーワードを直接参照

- 「図書がどのように位置づけられるか」から
 - **考えるための作業に使うもの**として
- **検索行動**における電子資料のメリット
 - 一般ネット情報（コスパ）との競合
 - ロール・モデルとしての書籍**に出会うため
- 論文作成におけるメリット
 - **手元において作業**できること・**必要性**の認識

ふたたび「なぜ読書？」

- ひとりひとりが**違うこと** “diversity”
= 「個性」にしたがった**それぞれの営み**
それぞれにおける書籍の位置づけ
※その意味では「人生」
×画一的な知識の受け売り
- きっかけとしての**専門**教育の可能性
- **ロング・テール**としてのあり方
「持続可能性」のための電子化